

平成30年度老人保健健康増進等事業

訪問・通所リハビリテーションのデータ収集システムの活用に関する調査研究事業

公立大学法人 埼玉県立大学

本事業では、リハビリテーション(以下、リハ)及びリハマネジメントの質の評価とその改善に向け、通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システム(以下、「VISIT」)について、データのフィードバック方法の確定、協力事業所での試行による評価ならびに課題の整理等について、有識者の意見を踏まえながら検討・提案した。

1. VISITデータの分析手法および活用方法の検討・提案

全国／事業所／利用者ベースの分析手法の検討、ならびに分析結果の活用方法(利用者や事業所へのフィードバックの内容等)を検討した。

(1) 利用者へのフィードバック方法(試行版)の確定に向けた提案

VISITに実装されている既存帳票(リハビリテーションサービス状況)の検証を実施し、それを踏まえた帳票の見直し案を提案した。

(2) 事業所へのフィードバック方法の検討及び様式の提案

各事業所が自事業所の相対的なポジション、パフォーマンスを確認するための比較項目分類として、①利用者特性、②リハマネジメント／リハ提供状況、③リハの効果の3点を提示し、具体的な分析項目を検討した(利用者特性であれば、性別、年齢、要介護度、移動能力、認知機能、ADLスコアなど)。その上で、協力事業所から入手したVISITデータを分析し、事業所フィードバック票(案)を作成、検討委員会での検討を経て、事業所フィードバック票の試行版を完成させた。

(3) 全国ベースの分析に関する検討及び提案

既存の帳票から分析可能なリハの効果検証(自立度の変化、自立に要する期間の分布)やプロセスの検証の提案を行った。

2. 追加的な項目の検討(他のデータベースとの連携も踏まえて)

分析に必要な追加項目として、栄養状態、疾患の状況、医療処置の有無、世帯類型、住まいの状況、家族の介護負担感、リハビリに対する意欲、栄養改善加算の算定の有無等を挙げた。

平成30年度の介護報酬改定において、VISITによるデータ提供がリハマネジメント加算の算定要件に加えられ、今後、VISITの活用が本格化していくことが期待されている。本事業で検討、提案した利用者・事業所へのフィードバック方法も、まずはVISITに実装、活用されるとともに、事業所における実践から、その効果と課題の検証、方法論の見直しを継続的に検討していくことが必要である。